

# Column

## 司会のふりかえり,こたつトーク

第1部「全体会」にて,司会を務めた高校生2人に感想を伺いました。

ナナミさん (高1) 写真左

マドカさん (高1) 写真右

清水 (南青少年活動センター)

竹田 (中京青少年活動センター)



### 司会としてのチャレンジ

ナナミ: センターは最初自習室として利用していました。ご飯を食べられるというのが魅力的。職員さんに放送部のことを話していて、「司会をやらないか」と声をかけられたときは、「よっしゃー」と思った。いっぱい経験した方が上手になれると思うから。

清水: 司会をお願いしたときに積極的に「やる」と言ってくれた高校生がいたことが嬉しかった。こっちも声をかけて良かったと思ったし、そこまでやってくれるって言ってもらえたからこそ、台本の準備とかもやりたいなと。一緒に作っていききたいなと思えた。

ナナミ: 実際やってみたらボロボロだった。たくさん噛んでしまって…初めてああいう場に出て、大会でも少ない人数にしか見られてなくて、今回は100人くらいの人が入ってすごく緊張した。最後の感想では自分が何を言っているのかわからなかった。  
終わってから、パネリストの人たちとは話さずに、すぐご飯を食べました。お腹が空いていたんだと思う。またやらせてもらえるなら、司会として是非やってみたいです。

マドカ: 放送部ではずっと発声練習。給食の時間にラジオを流したり、ラジオドラマやドキュメントを作ったり、文化祭の司会をしたり、カメラの雑用もあるし、思ったより忙しい。大会前は南センター2階で練習をしていて、その時の大会で良い成績が残せているということもあるので、センターを利用していただけたらいいかなと思える。  
当日の司会は、結構できたと思う。けど最後の感想、アドリブってやっぱりきつい。考えていてもその通りにはいかないもの。練習しておかないと…。終わったときは達成感があって、その後は2人で吹っ切れて、笑って鏡の前で踊って遊んでいました。おかしなテンションだった。司会が初めてだったので、思っていた以上にちゃんとした場だったので、緊張しました。

清水: (最後に)感想として2人が話してくれたことで、高校生が頑張っているという姿を見ることが出来て良かったです。良い意味で普段とのギャップがあった。最初からしっかり頑張っていた分、最後の部分で高校生の素の姿が見られたのが良かった。

### 全体会を聞いて…

ナナミ: 覚えているのは、どうやって人を使っていくか。どうしたら人は協力して出来るのかっていう話を聞いたこと。今、学校でもう1人の生徒会の人と一緒に文化祭を変えようとしていて、そういうときにどうしていったらうまくいくのかなあと考えるとき、今回の内容を思い出したりする。どうやって人と協力してやっていけるのか。

自分にとってのコミュニティは部活と生徒会。クラスはあんまり好きじゃない。仲の良い子はいるけど、人を嫌いになり過ぎちゃうところがある。1個嫌いと思うと受け付けなくなってしまう。部活は忙しいけど、意味わからんくらいに面白い。

マドカ: コミュニティの話からズれるけれど、進路について考えるときにすごい焦っていて、大学生が話していた内容を聞いてそういう道もあるんだと、ちょっと気楽になりました。学生時代から色々やっていたとか、将来の決め方の部分でよかったためになるなど。

私にとってのコミュニティは1番は部活。部活が楽しすぎる。先輩も面白くて大喜利大会みたい。部活に入ってなかったら何もなかったかもしれないです。

竹田: 自分を表現する場って意外と少ない。発表会のような形でやらされることはあっても、自然に表現できる場ってあまりない。部活の中で表現できていることが素敵。自分の言葉で表現できること、出せる場をコミュニティとして持っていることが素敵だなと思いました。こういう場でも良いし、普段関わりの少ない人にも話してもらいたいなと思いました。